

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画の策定について

1. (仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

2. これまでの検討状況

- ①西小倉地域小中一貫校整備検討委員会 学校部会の開催状況
- 第7回学校部会 6月28日(火) グループワークほか
 - 第8回学校部会 7月28日(木) 基本計画素案ほか

- ②保護者説明会
- 7月23日(土) 場所：西小倉小学校

3. 今後の予定について

- 9月～10月
 - 第9回学校部会
 - 第3回整備検討委員会
 - 保護者説明会
 - 基本設計策定

(仮称) 西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

宇治市教育委員会
令和 4 年 8 月

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

目次

1. はじめに	1
2. 敷地概要	2
3. 基本コンセプト	4
4. 計画概要	8
5. 図面編	9
・1階平面図	9
・2階平面図	10
・3階平面図	11
・4階平面図	12
・断面図	13

1. はじめに

宇治市では、平成24年度より全市で小中一貫教育を実施し、義務教育9年間を通して、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導や生徒指導を行うことにより、学力の充実・向上を図るととともに、豊かな人間性や社会性を育むことに努めているところです。

平成24年度に開校した宇治市で初の施設一体型小中一貫校となる宇治黄檗学園では、9年間の系統的・継続的な指導、子どもたちを包み込む保護者、地域の皆様の思いに支えられて、全校児童生徒は伸び伸びと学校生活を送っております。小学生にとっては、普段の学校生活の中で、中学生の姿から、将来の理想像を見出し、中学生も小学生の姿にこれまでの自分を投影して振り返ることができます。こうした日常が、自己有用感を育み、子どもたちは、充実した学校生活を送ることができます。さらに、義務教育9年間を同じ学校で過ごすことで、子どもたちの様子が目に見える形で教職員の中で共有され、中学生になっても困ったときには同じ学校にいる小学校の先生(元担任等)に相談できることなどが、施設一体型小中一貫校の良さであると考えています。

西小倉地域においては、令和元年12月に地域を主体とした「西小倉地域の小中学校のあり方検討委員会」から、3つの小学校(西小倉小学校・北小倉小学校・南小倉小学校)と西小倉中学校を統合し、小中一貫校として新設の学校の整備を求める要望を受けて、本市2校目となる(仮称)西小倉地域小中一貫校の整備に向けて検討を開始し、令和3年8月、開校場所を西小倉中学校敷地とし、令和8年4月の開校を目指すことを決定しました。

令和4年1月、有識者等からなる「西小倉地域小中一貫校整備検討委員会」を設置し、委員会内の学校部会で(仮称)西小倉地域小中一貫校の整備に関するについて、地域、保護者、学校関係者等と意見交換を重ねてきました。

このたび宇治市教育委員会では、これまでの整備検討委員会でのご意見を踏まえ、新しい時代の学びを実践し、さらには西小倉地域の核となる学校施設としての基本的な事項をとりまとめた「(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画」を策定しました。

なお、本計画における各種の図面は計画内容を視覚的にイメージしたものであり、今後、具体的な事項について検討を進め、基本設計、実施設計の中で必要な変更を加えていくものとしています。したがって、本計画図面が(仮称)西小倉地域小中一貫校の完成図となるものではありません。

2. 敷地概要

●敷地の条件、施設の規模

敷地 京都府宇治市伊勢田町遊田7番地の1(現:西小倉中学校敷地)

主な施設

校舎(児童生徒数 小学校650人、中学校300人、計950人程度)

屋内運動場、25mプール

グラウンド など

用途地域等 第一種中高層住居専用地域、準防火地域

主な法的規制 建ぺい率60% 容積率200%

第二種高度地区

景観G地区

敷地面積 23,739m²

・計画地は、宇治川の左岸(西側)に位置し、景観構成要素として広大な田園地、「巨椋池干拓田」を含む地域である。



巨椋池干拓田

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

■敷地及び周辺の写真

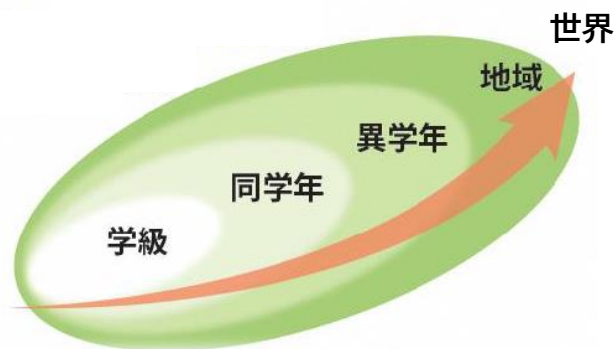


グラウンドから見た西小倉中学校の校舎

3. 基本コンセプト

テーマ:「同学年から異学年、地域から世界へと広がる、探究力を高める学び舎」

学級の枠を超えて、同学年から異学年、地域から世界へと視野を広げ、好奇心や興味関心、探究力を高める学び場



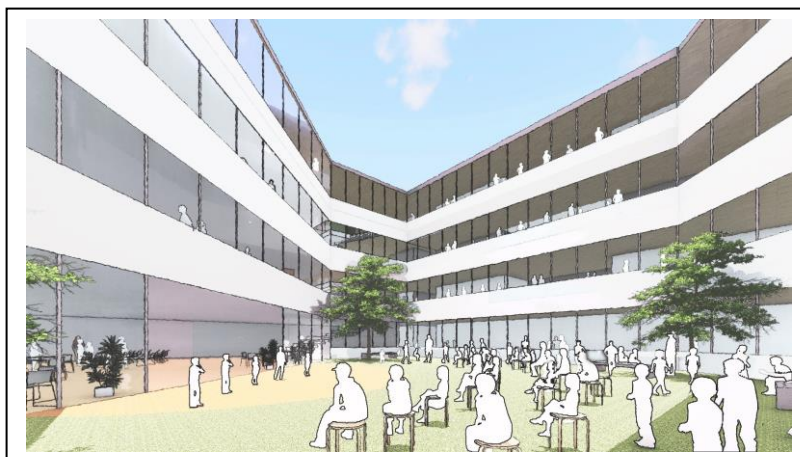
1. 子どもたちが光り輝く小中一貫教育を推進する学校

○子どもたちの発達段階に応じた9年間を見通した系統性、連続性のある多様な教育活動を効果的に行える施設

- ・学年単位のつながりを深める学年ユニット
- ・発達段階に対応したフロアゾーニング

○多様な異学年交流ができ、9学年のつながりとふれあいで、互いに成長できる施設

- ・多様な仲間との一体感を高める動線計画
- ・異学年との学び合い・交流を広げるスペースの確保



(中庭イメージ)

- 異学年の活動の様子が校舎全体から見渡せる構造であることにより、一体感を持ちながらも子どもたちが異学年や多様な学びへの関心を抱き、成長と共に関係世界を広げていく探究力を育む

(仮称)西小倉地域小中一貫校整備事業に係る基本計画

○主体的な活動の支援や豊かな創造性を引き出すなど主体的な学びを実現する、認知能力と非認知能力を一体的に育む教育が行える空間や施設

- ・ 自然を感じ、仲間とつながるスペースの確保



(コモンズイメージ)

■児童生徒の作品を展示・鑑賞することなどで異学年の活動を感じ、学年を超えた交流をとoshi、仲間とのつながりを育むコモンズを配置

- ・ 中庭を活かした開放的な交流・学びの場



(中庭イメージ)

■イベントや屋外学習等、柔軟で

創造的な学びに対応した交流ホールと一体利用可能な中庭を中央に配置

○小中学校教職員が協働して一つの学校として機能し、学校運営の一貫性を確保できる施設

- ・ 教師と児童生徒のコミュニケーションを深めるスペースの確保



(教師ステーションイメージ)

■休み時間に子どもが教師と相談をするなど、様々な交流を育む教師ステーションを配置

- ・ 職員室などの管理機能を集約配置し、職員同士の連携を強化

2. 多機能で変化に対応し、多様な教育課題に対応できる学校

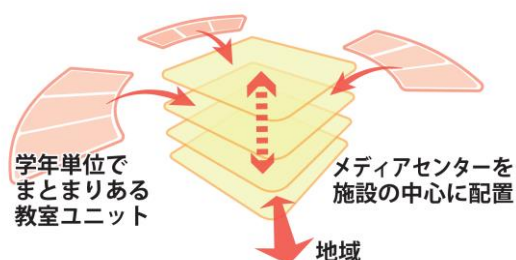
○機能性や柔軟性、可変性を持つことにより、随時変化する多様な教育内容や教育方法に対応できる施設

- ・対話型授業にも対応できる、教室の機能性の確保
- ・多目的な活動が展開しやすいスペースの確保

○学校施設全体が柔軟で創造的な学びを実現できる空間であり、どこでも教育の場、表現・交流する場、心のゆとりと豊かさを育む場となる施設

- ・多様な交流が行えるスペースの配置
- ・校舎全体に光と風が行きわたり、自然を感じることができる環境づくり

■図書室の機能に加えて、ICT 機器を活用し、子ども自らの探究的・創造的な学びを促すメディアセンターを整備



(メディアセンターイメージ)

○ウィズコロナ・ポストコロナ時代において、すべての子どもたちに学びを保障する、新しい時代の学びを支える教育環境を提供できる施設

- ・GIGA スクール構想、ICT 教育など、新しい学びに対応できる教室環境の確保

■身体的距離を確保しつつ、タブレット端末を利用した学習やグループ学習など、個別最適な学びと協働的な学びに対応できるゆとりのある教室を整備

○教育活動に必要な機能を確保しつつ、イニシャルコスト・維持管理コストの縮減を図り、長寿命化にも配慮した施設

- ・構造の合理化等によるイニシャルコスト・維持管理コストの縮減
- ・清掃・修繕しやすく長寿命化に配慮した計画

3. 安全・安心で、利用しやすく、子どもたちが楽しく通える学校

○多様な発達段階の子どもたちが、のびのびと活動できる快適性と安全性を備えた空間や施設（工事期間中の安全確保も含む）

- ・成長段階に応じた屋外活動スペース（メイングラウンド・サブグラウンド）
- ・児童生徒の安全に配慮した工事計画

○学校生活の中で、集中とやすらぎの調和がとれた施設

- ・自然素材を活用し、温もりのある、心を落ち着かせる学習環境
- ・採光・通風を確保し、明るく快適な環境づくり

○ウィズコロナ・ポストコロナ時代における新しい生活様式や、防犯面、ユニバーサルデザインに配慮し、利用する誰もが安全安心に過ごせる施設

- ・施設中央に中庭を設け、教室や共用部に風が通り抜けやすい屋内環境の確保
- ・見守りやすく、管理しやすいセキュリティ計画（門・昇降口・グラウンドを視認しやすい職員室配置）

4. 家庭・学校・地域が連携・協働し、互いの安心と信頼が生まれる、地域のシンボルとなる学校

○学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）と地域学校協働活動を一体的に推進し、地域の教育力を積極的に活用した教育活動ができる施設

○子どもたちの学びを地域ぐるみで支えることができる施設

- ・地域開放機能の配置
- ・地域の多様なイベントを開催できるスペースの確保

■地域コミュニティの核となる学校として、地域利用が可能な特別教室等をゾーニングし、地域とのつながりを創出

○自然エネルギーの効果的利用などにより、持続可能な教育環境の実現に配慮した地域のシンボルとなる施設

- ・自然採光・通風による、空調・照明負荷の低減
- ・費用対効果の高い設備機器、環境技術の採用

○地域防災や地域コミュニティの活性化の役割が担える地域の核となる施設

- ・避難所等の防災機能の確保
- ・避難所エリアと学校運営エリアのゾーニング

■災害時は、屋内運動場等の避難エリアと教育活動エリアの動線を分けたゾーニングを実施し、避難所としての防災機能を強化

4. 計画概要

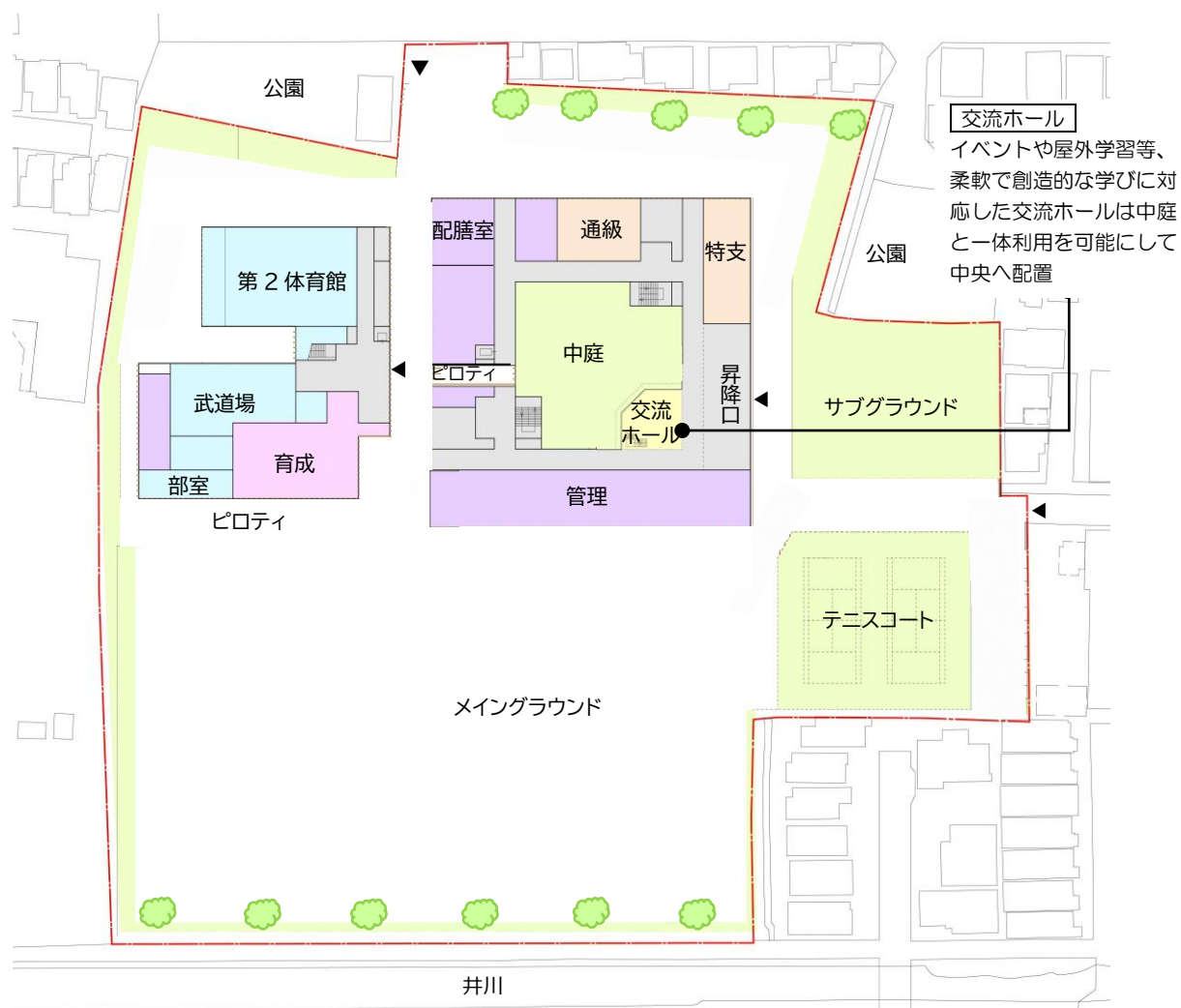
「中庭・交流エリア」を中心とした計画

- 1 交流の拠点となる「交流エリア」を施設の中心に配置し、日常的な生活動線からアクセスしやすく、かつ新しい学び・交流が促進しやすい計画
- 2 回遊性のある分かりやすい動線により、中庭を介してお互いの活動が感じられ、9年間の一体感・交流を育む空間構成
- 3 各機能をまとめて配置した明確な機能構成により、地域活動や避難所として利用しやすいゾーニング計画
- 4 地域開放エリアのまとまりをもたせ、地域の新たなシンボルとなる計画



(外観イメージ)

5. 図面編

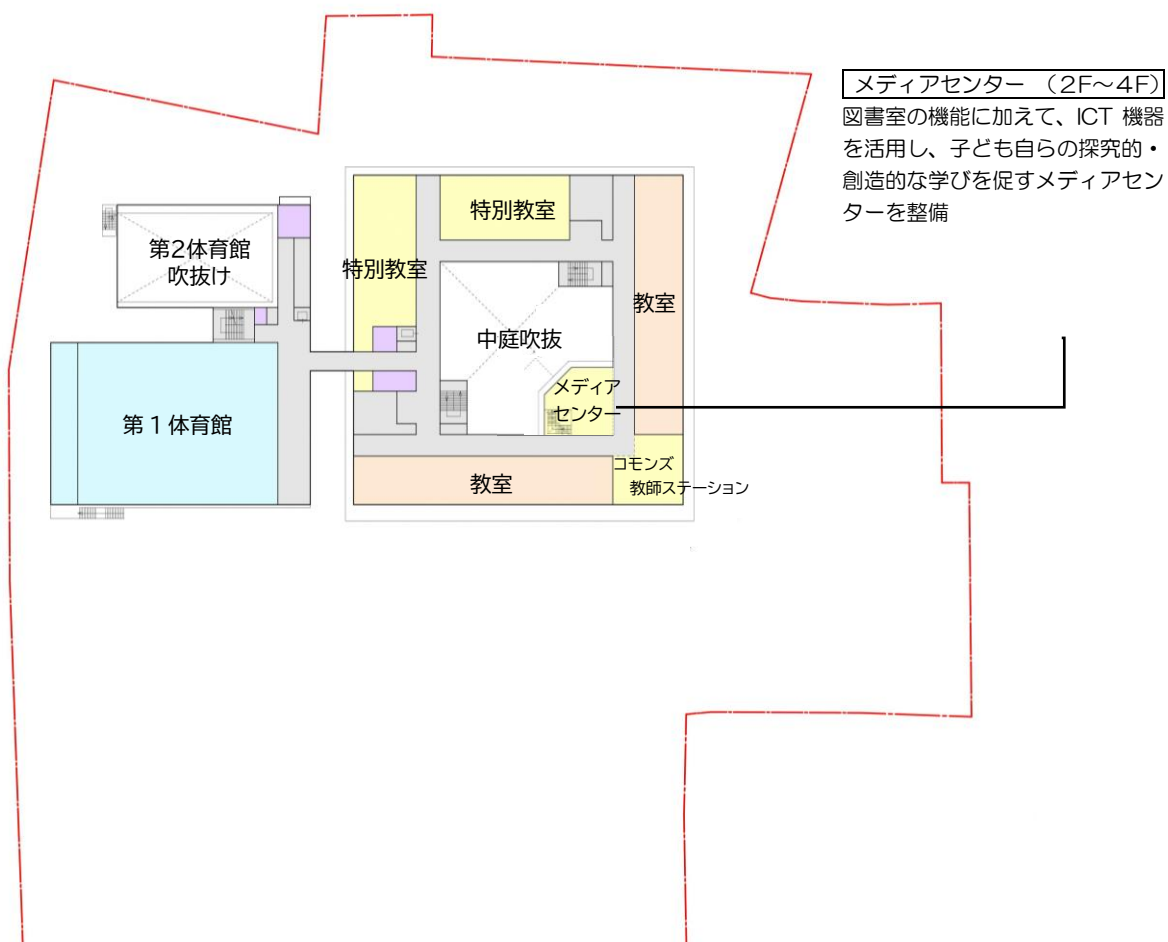


中庭や交流ホールなど、地域開放が可能なスペースにまとまりをもたせることで、地域とのつながりを創出

1 階平面図



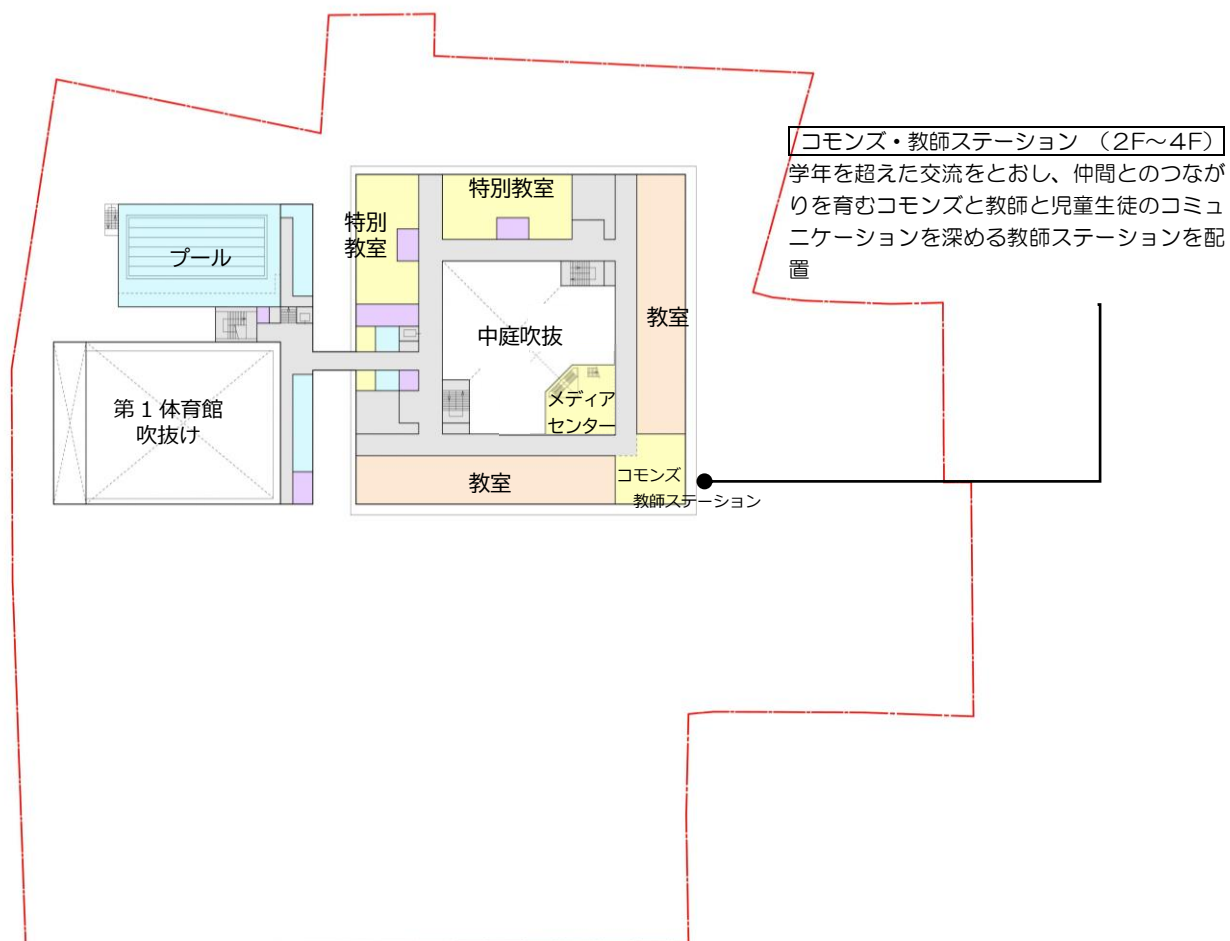
5. 図面編



- 普通教室
- 特別教室
- 運動施設
- 管理諸室
- 育成
- 共用部分

2 階平面図

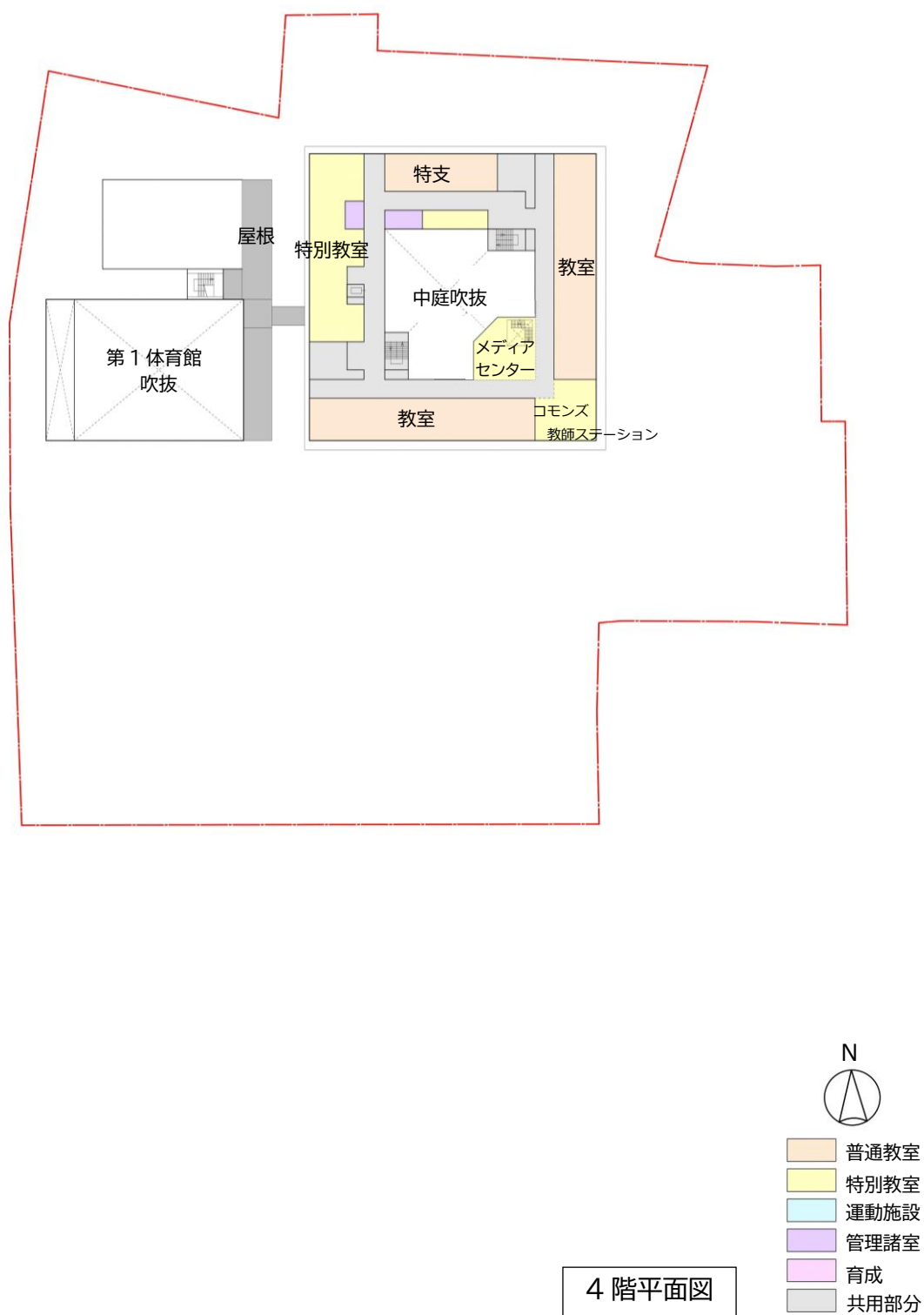
5. 図面編



- 普通教室
- 特別教室
- 運動施設
- 管理諸室
- 育成
- 共用部分

3 階平面図

5. 図面編



5. 図面編

